



名取やすし 県議会報告

発行 山梨県議会議員 名取 泰
事務所 南アルプス市飯野3680
電話 055-283-1702
メール natoriff@gmail.com

2025年2月 No.5 **日本共産党**

教育現場の課題解決へ提案

昨年10月4日に行なわれた山梨県議会9月定例会での一般質問の要旨を紹介します(知事の政治資金問題については中面に掲載)

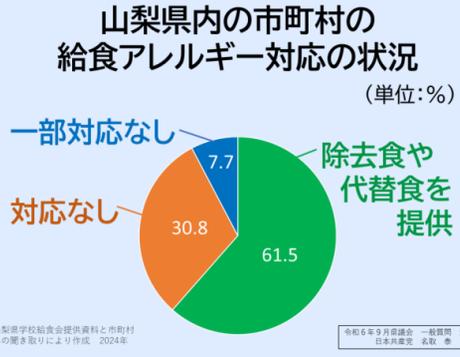
昨年の県議会9月定例会では、一般質問を行ない知事の政治資金をめぐる問題をはじめ、学校給食や教室不足、教員不足など教育現場の様々な課題についても質問しました。また、12月定例会では県の「富士トラム」について取り上げました。これらの内容を議会報告にまとめましたので、どうぞご覧ください。

引き続き物価高騰の暮らしへの影響が続いており、暮らし応援の政策が求められています。これからも皆さんの声を県政へ届けるためにがんばります。 ※ご意見をお寄せください。

学校給食のアレルギー対応について 県内3割の自治体で未実施

県内ではまだ3割の自治体が学校給食で食物アレルギーの除去食や代替食の提供がありません。質問では誰もが安心して一緒に給食を食べられる環境を整えることに県が取り組むように求めました。

教育長からは「学校の設置者である市町村にアレルギー対応について必要な指導や助言を行っている」「県としても取り組みを進めて参りたい」との考えが示されました。



特別支援学校の教室不足について 教室不足が10年横ばい



全国的に特別支援学校の教室不足が深刻です。県内でもこの10年不足数がほぼ横ばいの状況です。現場でも「情緒障害や激しいパニックを有する生徒がクールダウンするための教室がなく、玄関の軒下や渡り廊下で授業をしている」など、深刻な状況があります。県の考えを質すと「特別教室を普通教室に転用したり、一つの教室を仕切って二つにしている」というもので根本的解決になりません。教室を増やすことや学校を新設することを求めました。

教育長からは「改善のため、しっかりと研究を行なっていく」「現時点で新設が必要な状況とは考えていない」との答弁がありました。

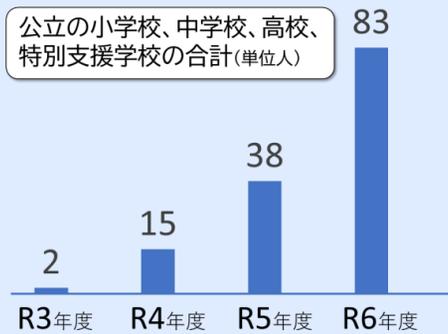
教員不足の解消について

今年度も83人不足 正規採用増こそ

山梨県は25人学級を小学校高学年まで拡大する少人数学級を推進していますが、一方で教員不足が年々深刻になっており、令和6年度は前年度の倍以上の83人の不足となっています。質問では解決のために正規教員の採用数を抜本的に増やすように求めました。

教育長は「退職予定者数や再任用者数を踏まえ採用予定者数を定めている」と、正規教員の採用増に正面から取り組む姿勢を示しませんでした。

山梨県の教員不足数の推移



- 福祉事業所への支援
- 学校給食費の無償化
- 特別支援学校での看護師の採用増
- 県動物愛護指導センターの充実とボランティアへの支援
- 南アルプスIC周辺の渋滞対策
- 富士山登山鉄道構想
- 知事の政治資金問題について質問しました。

県の「富士トラム構想」について—12月議会で質問

鉄軌道を断念しゴムタイヤ車両に変更

山梨県の長崎幸太郎知事は、11月18日の議員説明会及び同日の記者会見で、富士山の抱える問題(オーバーツーリズム対策のための来訪者コントロール、排ガス車による環境破壊)を解決するためとして進めてきた富士山登山鉄道構想について、これまで検討してきた次世代型路面電車(LRT)方式による「鉄軌道」を断念し、新たにゴムタイヤによる車両(ART)を用いた『富士トラム』構想を発表しました。昨年の12月県議会の関連質問で構想の問題点を取り上げました。



山梨県が発表した「富士トラム」のイメージ図(山梨県のホームページより)

海外では既に計画中止の事例も

質問ではまず、中国製ARTについてのレポート(24年2月24日配信『東洋経済オンライン』)で、「ゴムタイヤ走行による轍(わだち)が道路上に発生するなどして、乗り心地が悪化した」「降雪地区では白線の読み取りができず、スリップなどの恐れもある」「ARTを開発した中国では、いずれも上記の理由で2023年に廃止された」と指摘されていることを紹介し、技術的にも富士トラムの導入は無理があるのではないかと質しました。

県の答弁は「轍については心配は無用」「中国の極寒地で実走した例もある」という内容でした。しかし、計画が中止になった海外の実例は重大と考えます。

1泊9万円のホテル建設を計画

知事は12月議会の説明要旨で「富士山は決して、特定の者の特定の利益のためのものではない」と述べました。しかし、県が富士トラム構想に引き継ぐとしている登山鉄道構想の『中間報告』では、「登山鉄道に乘車する客層は一定程度のミドルアッパー層が高い割合を占める」として、五合目には「ラグジュアリーホテル」の建設を計画。ホテルの1泊2食の料金を9万4千円と設定しています。これは高額所得者や富裕層などを「特定の者の特定の利益」として想定しているのではないかと、富士トラム構想になってもこの計画は変更しないのか質しました。

知事は「そういった方だけに来てもらうわけではない」「様々な楽しみ方を提供する」と述べましたが、計画を変更するとは答えませんでした。

構想そのものの撤回を求め予算に反対

12月補正予算には、富士トラムの検討費用が盛り込まれていたことから、日本共産党として「県は、富士トラム構想でも、5合目の半地下方式の駅などの大型開発をはじめ、冬場の運行や6分間隔の超過密運行、富裕層向け高級ホテル建設など、結局は鉄軌道からゴムタイヤに変わっただけで、構想の問題点はなんら変わっていない。構想そのものの撤回を求める」と討論で指摘し、予算に反対しました。

知事は富士トラムで県内全域を結ぶ計画を示しています。そうならば登山鉄道構想以上の大型開発となる可能性があります。引き続きこうした問題を明らかにするとともに、富士山の課題解決には、既存の電気バスを活用することを求めていきます。

活

サクランボの収量減で懇談

昨年のサクランボの収量減の状況について、JA南アルプス市の幹部の皆さんと懇談。



動物愛護の先進地を視察

神奈川県動物愛護センターを視察しました。動物愛護活動の先進事例を県内の取り組みにも活かすように提案していきます。

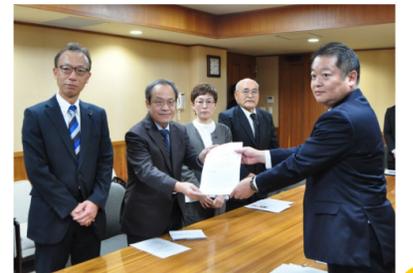


自動運転の電気バスに乗車

昨年11月、富士吉田市の電気バスを活用した自動運転実証実験を視察し、バスにも乗車しました。富士山の来訪者コントロールや環境対策としても注目されます。

物価高騰対策など知事へ要望書提出

1月8日、長崎幸太郎山梨県知事に来年度予算要望書を提出しました。特に物価高騰対策について、国の重点支援交付金を活用して緊急の対策をおこなうことなどを求めました。



報

県議会での質問の様子を動画でご覧いただけます。右のコードをスマホで読み取っていただくか、インターネットで「山梨県議会」を検索し、「県議会インターネット中継」へ進んでください。

9月議会



12月議会



その他の活動報告など、すべての情報は「名取やすし」公式ホームページでご覧いただけます。(ご意見用のメッセージフォームもあります)



知事自ら現金を受け取り、4年以上不記載に

知事の政治資金問題について質す



昨年10月4日、山梨県議会9月定例会での一般質問から知事の政治資金問題に関する部分の要旨をお伝えします。

知事の政治資金をめぐる問題について

〈名取県議〉知事は自身が代表を務める資金管理団体が2019年に、自民党二階派と志帥会から受け取った1182万円を収支報告書に記載していなかった問題について、検察の不起訴処分となったことを踏まえ8月29日に記者会見をおこなった。その概要を説明していただきたい。

〈長崎幸太郎知事〉当該金員（1182万円）については、2019年8月に、私が別の要件のために上京をし、時間調整をすべく、志帥会事務局を立ち寄った際に、同事務局長から紙袋にて受け取ったものである。志帥会側の話ぶりから紙袋にはこの年に行われたパーティーの売上ノルマの超過分に関連する金銭が入っているとは推察したが、中身を確認することはなかった。

ガムテープで封をされた紙袋で現金を受け取る

〈名取県議〉現金の受け渡しについて、志帥会事務局長は、知事に紙袋を渡す際に、「事務所も大変でしょうから、そうは言わずとにかく受け取ってください」と最初に言ったとのことだが、これは明らかに『使つてよいお金』として渡そうとしたことになるが、その認識はなかったのか。

〈長崎知事〉志帥会事務局長の認識については答える立場にない。

〈名取県議〉記者会見での説明では、志帥会の事務局長と知事しかいない部屋で、ガムテープで封をされた紙袋で現金を受け取ったということだが、その場でなぜ中身を確認しなかったのか。

〈長崎知事〉次の予定もあったので、中身を確認せず、その場を失礼した。

領収書などは取り交わさず

〈名取県議〉紙袋の受け渡しの際に領収書や預かり書は取り交わさなかったのか。

〈長崎知事〉これまでも、私どもの事務処理では、いただいたものを後日、事務方に渡し、事務方で志帥会の事務局としっかりと連絡が取られて、領収書の受け渡しが行われてきたので、今回もそのように行われるものだと考えていた。なお、私はこれを受け取りに行ったわけではなく、別件に立ち寄った際に渡されたものなので、そういうもの（領収書）をあらかじめ用意していることもなかった。

〈名取県議〉中身を見なくても1182万円ともなれば、重さは1kg以上になる。しかも、領収書も預かり書も取り交わささない。普通の感覚なら、怪しいと感じると思うが、知事はそう思わなかったのか。

か、領収書も預かり書も取り交わささない。普通の感覚なら、怪しいと感じると思うが、知事はそう思わなかったのか。

〈長崎知事〉いただいたものは、売上ノルマ超過分に関連する金銭が入っているものとは推察はしたが、現金で渡されることはそれ以前にもしばしばあって、後日しっかりと領収書のやり取りが交わされ、そして収支報告書に記載されていたので、今回もそのような処理がされると考えていた。

〈名取県議〉受け渡しの際、「処理方法はこれからの指示を待ってください」と言われたとのことだが、これは寄付として収支報告書に記載するオモテのお金として処理するのか、それとも記載しない裏金として処理するのかを意味するともとれるが。

〈長崎知事〉私もこれまで志帥会との資金について、全て領収書のやり取りをし、収支報告書に適切に記載してきた。私どもは裏金として授受するということは夢にも思わない。我々と志帥会のやり取りも、すべてガラス張りの中で行なわれていたもので、今回もそのように当然行なわれるだろうと認識をしていた。

現金を受け取った年のキックバック額が突出している

〈名取県議〉知事が志帥会から受け取ったキックバックの金額を年度ごとにとまとめると、1182万円を含めた2019年が突出している（左図）。その理由について、現金の受け渡しの際に説明はなかったか。

※〈長崎知事〉は、2019年に知事選があり、その際に志帥会の会長であった二階俊博氏が応援に来てくれた経過から、この年のパーティー券を普段以上に多く売上げたこと。さらにノルマが衆院議員時代よりも少なかったことで、キックバックの額が大きくなったと説明しました。また、選挙区が全県になった一方、国会議員時代と違い知事は公設秘書がないことで、人件費負担が増えたことなどを例に挙げ、こうした事情を志帥会側で考慮して、キックバック額を多くしてくれたのではないかと推察すると答弁しました。

他の現金と一緒に管理してれば、使ったのと同じではないか

〈名取県議〉次に、受け取った現金の管理について、知事は記者会見で志帥会から受け取った1182万円の現金を紙袋から出して、他のお金と一緒に金庫に入れていたと説明した。そして、1182万円を割り込むことがないように残高管理をしていたとも説明した。しかし他の現金と一緒にし

ている以上、何かのために使っていたと言われても仕方がないと思うが。

※〈長崎知事〉は、金の管理は社会通年上残高管理が行われており、お札の番号を控えて管理はされていない。自身の事務所では現金を袋から取り出していたが、1182万円以上の金額を常に保持する形で残高管理がされていたとして、「当該額の金員には手をつけずに保全をされていたと評価できる」と答弁しました。

〈名取県議〉基盤号で管理しなくても袋に入れたまま別に置いておく方が普通だ。

記者会見で記者から「いつでも借りることができる金庫に1182万円を入れていたとのことだが、金庫から出金した場合は通常はどのように処理していたのか」と質問されたのに対して、知事は「短期の資金繰りで返されれば、記載していなかった」と回答した。記載せずに使用したのなら残高管理できていたとは言えず、1182万円も使っていた可能性があるのでは。

〈長崎知事〉そこは検察当局の調べの中で、この点はしっかりと問い合わせに対して、私の方でこの1182万円を割ることはなかったと説明はしている。確かに指摘のように袋のまま手を触れずに持つていれば良かったが、出納担当者がまずその金額を確認する意味で袋から取り出すということとは十分あり得ることだろうと思う。

残高管理されていたのであれば「失念」は説明がつかない

〈名取県議〉知事は記者会見で1182万円を「失念したまま、結果として数年来、取り置かれたままとなっていた」と述べたが、残高管理が行われていたのであれば、失念していたという説明は、成り立たないのではないかと。

〈長崎知事〉その失念とは、この金員を受け取ったこととか、持っていることというのではなくて、これを適切に確認をし、適切に収支報告書に記載しなければならぬところを失念していたということだ。

事実に基づけば政治資金規正法違反にあたるのではないか

〈名取県議〉政治資金規正法では、収支報告書の不記載を、故意におこなったり、その際に重い過失が認められれば、違反になると解される。知事が自ら現金を受け取り、それを他のお金と一緒にしていたなら、これは収入と見なされると思う。しかもその状態で4年以上も収支報告書に記載をしていなかったということは、故意に不記載にしていたと言われても仕方がないと思う。そういう事実に基づけば、政治資金規正法違反にあたるのではないかと。

※〈長崎知事〉は、故意に不記載にしたのではないかとの指摘に対して「これは犯罪を成立させる要素の存在の主張となる。これはそう主張する側が立証責任を負うべきものである」として、それが事実であると確認できないならば、これは「印象操作、あるいは人格攻撃となりうる」と発言。「県議会の議論の名に値しない、誹謗中傷を超えた極めて悪質な、私に対する人権侵害だと言わざるを得ない」と続けました。

〈名取県議〉不起訴になったからといって、知事の政治的責任が免罪されるものではないと思う。引き続き県民の目線で解明していく。



若草・甲西バイパス歩道の雑草の伐採



甲西中学北交差点の横断歩道の修繕

【ご報告】お寄せいただいた要望箇所について関係機関に依頼し改善がされました

*お気づきに所がありましたらお知らせください。

最新の政治資金収支報告書を基に質問

山梨県議会12月定例会では日本共産党の菅野幹子県議が、公開されたばかりの令和5年の政治資金収支報告書をもとに、知事の政治資金問題を質問しました。

政治資金パーティーで収入5500万円

その中では知事の政治資金管理団体が、山梨県内で開催した政治資金パーティーを取り上げました。知事は令和5年にパーティーを2回開催し、そのパーティー券売上は5760万円で、実際にかかった会場費は256万円、差し引き5500万円もが収入になっています(利益率95%)。政治資金規正法では政治資金パーティーについて「対価を徴収して行なわ

れる催し」と規定していますが、95%もの利益率では対価があったとは言えず、適切でない指摘しました。

長崎知事は「(パーティー)参加者は対話の機会や交流、講演などでも価値を見出している」と説明しました。

「時期をみて政治資金パーティーを開催」

また、令和6年のパーティーの開催状況と今後の開催の考えを問うと、知事は「今年は政治資金パーティーは開催していない」「今後はいずれ時期をみて実施する方向で考えている」と答えました。また、「私自身もそうだが、世襲でもなく、大金持ちでもない人間は、政治資金パーティーで有志の皆様を支えていただくことで、政治参画の可能性が生まれる」と、自身の考えを示しました。